小25　町田市立鶴川第三小学校

2021年度　授業改善推進プラン（全体計画）

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

★学習指導の目標：「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばせる学校」を目指す
○新しい教育における授業力の向上・・・「アクティブラーニング」「カリキュラム・マネジメント」
　・授業力の6つの構成要素　（OJTによる日常的な研修機会）　　・教科における既習事項の有効な活用　（基礎的な知識及び技能の習得）
　①授業展開においては、一人一人の既習事項の定着度を確認し、教科の積み上げを図る。
　②児童にとって、既習事項がどのように役に立つのかが実感できる工夫を心がける。（学びに向かう力、人間性の涵養）
　③既習事項の他教科や生活場面での活用を率先して行う。
○ICT機器の活用○プログラミング教育○外国語授業の指導力向上○児童の体力の向上○地域の自然環境や人的環境を生かした体験活動

授業改善の重点

○アクティブラーニングの素地となる、鶴川スタンダードの内容を検討し、実施することを通じて、児童生徒の学習規律を定着させる。
○授業力の構成要素の一つである、評価に重点を置き、指導と評価の一体化とPDCAサイクルの確立を図る。
○「教科書を教える」から、「教科書で教える」へと意識改革をすることで、児童が主体的に課題を解決していく力を育む。

各教科の指導の重点

国語科

○漢字学習や小テスト、基本的な言語知識獲得のための授業を行い、文章の読み取りに生かす。
○校内研究を通して、児童が読む力をさらに高めるとともに、自分の考えを進んで表現できる活動を充実させる。
○学年に応じて、説明文の適切な読み方ができるように指導する。既習事項を確かめながら、児童自身が自分の身に付けるべき読み方を理解して学習に取り組めるようにする。

音楽科

○ペアやグループでの活動を重視し、歌唱、楽器演奏や鑑賞などの課題を協働的に解決できるようにする。
○音楽を聴いて感じたことや演奏の工夫などを自分なりの言葉で表現するなど、言語活動の充実を図る。

社会科

○日頃の授業で、資料やグラフを読み取ることを意識した授業を行い、読み取る力を育てる。
○体験活動から学んだことと、社会的事象や言語への理解の定着を図る。
○グループやペアでの話し合いが活発になるように課題を吟味し、進んで表現しようとする力を高める。

図工科

○造形活動に対する思考力、判断力、表現力を育成するために、感じたことや考えたことを話したり聞いたり書いたりする言語活動を充実させる。
○様々な用具の使い方や材料に触れる機会を多くつくり、より多様で自由な発想が発揮できるようにする。

算数科

○計算ドリルやプリントを通し、基礎・基本的な知識・技能の徹底を図る。児童の実態を把握し、苦手な分野を集中して取り組ませる。
○問題の内容理解を促すため、図や□を使った式で表すなど、解決までの道筋が分かるよう指導を工夫する。
○どの単元でも、問題解決型学習を実施し、問題を自力解決し、協働的に解決するという過程から、主体的に取り組めるようにする。
○どの単元でも協同的探究学習の形態を取り入れ、話し合いながら自分との相違や関連付けをしながら思考力を高める。

家庭科

○健康で豊かな衣食住生活に関する課題を自ら解決する力を養い、協同的な活動を通して日常生活で実践的な工夫を生み出そうとする態度を育てる。

理科

○生命・地球の領域では、全単元を通して観察・実験を行い、実感を伴った理解を図る。また、映像を副教材として提示して、時間による変化を捉えられるようにする。
○物質・エネルギーの領域では、発展的な学習として、実験などの活動を増やし、自然の事物・事象についての理解を深める。また、実験用具を整え、充実した学習ができるようにする。

体育科

○町田ボールをボールゲームの起点と位置付け、その他のゴール型（ゲーム）の楽しさを存分に味わわせ、児童の日常的な運動量の増加を目指す。
○どの運動領域においても、ペアやグループでの学習を行い、協同的に課題を解決する態度を育てる。

生活科

○保護者や地域の支援を活用し、より多様で安全な体験活動を展開する。
○体験の前後に意見交流を行い、自分の気付きや意見を人に伝える機会をつくる。
○自ら見通しをもち、振り返ることができる活動を積み重ねる。

外国語科（5・6年生）

○日常会話やスピーチを通して聞くこと、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる。
○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じ、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて振り返る機会を設ける。

総合的な学習の時間の指導の重点

○「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ、表現」のサイクルを重視して学習を構成し、その学び方を他教科にも広く生かせるよう取り組む。

特別の教科 道徳の指導の重点

○登場人物の心情を話し合うことを通して、ねらいとする道徳的価値に触れることができるようにする。
○自分の生活を振り返り、自身の在り方を考える。

特別活動の指導の重点

○合意形成・自己肯定感を実践しながら、望ましい集団活動を通して、活動の目標を全員で作り、その目標について全員が共通理解をもてるようにする。
○教師が一人一人のよさや発想、取り組み等を認めながら、子供との信頼関係づくりを図る。

外国語活動（3・4年）の指導の重点

○クイズやゲームなどのアクティビティを中心に授業を組み立て、楽しみながら英語に触れ、英語を用いたコミュニケーションに親しめるようにする。

本校の授業改善に向けて

○今年度の校内研究では、国語科の指導法の研究を推進していく。新たに示された3つの資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力」を重点として研究を進める。
○研究と共に研修としても位置付け若手の授業力向上、及び中堅教員の指導力向上を図る。

○指導要領本格実施に向けて、全教員で指導計画の見直しを図る。PDCAサイクルを確立し、児童が学習の振り返りやシェアリングを毎時間行い、教師は授業の改善へと取り組む。
○教師が本来もつ力を発揮するための「時間」を生み出す。そのためには会議を精選し、無理のない学校行事の運営を目指す。また、配置されたスクールサポートスタッフの積極的な活用により、教師が授業研究に費やす時間を生み出していく。

○東京ベーシックドリル等を活用し、児童生徒の基礎・基本的内容について身に付けさせる。また、家庭学習の取り組み方を改善し、保護者が児童の習熟度を把握しやすくする。
○VCとの積極的な連携により、新たな地域人材の開発や、地域の自然環境や人的環境とのつながりをより充実させる。
○学校評価アンケートをもとに、学校の運営方針への客観的な評価を確かめることで、学校全体のPDCAサイクルを活性化させる。